様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月　 ６ 日現在

機関番号：３２６９８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２４６０

研究課題名（和文）近代韓国児童文学における＜童謡・童詩＞研究

研究課題名（英文）A study of children's poems in modern Korean children's literature

研究代表者
大竹　聖美（otake, kiyomi）

東京純心大学・現代文化学部・教授

研究者番号：６０３８６７９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：　韓国の童謡、童詩の系譜研究に関して、「日本における朝鮮・韓国の詩（子守歌・童謡・童詩）の受容」として、台湾台東市の台東大学で開催された第13回アジア児童文学大会（平成28年8月11日～15日）において発表した。ここでは、特に日本で受容された韓国の童謡・童詩文学の系譜を整理している。また、韓国近代童謡詩人の代表として李元寿に注目し、韓国の李元寿文学館にて調査研究をすすめ、その作品の発表舞台である『オリニ』誌ならびにその主幹であった方定煥研究を行い、４本の研究論文にまとめている。

研究成果の概要（英文）：　I made a presentation with the theme "Acceptance of Korean poetry (lullaby,children's poetry) in Japan" at the 13th Asian Children's Literature Convention (11th - 15th August 2016) held at Taitung University in Taitung City, Taiwan.Also, I focused on Lee Wong-soo and Choi Sun-e as a representative of Korean modern day-poet , and researched at Lee Wong-soo literature pavilion.In addition, I did research on Children's magazine "Orini" which is the presentation stage of their work and Bang Jeong-hwan who was its principal, and I made four research papers.

研究分野：韓国児童文学

キーワード：児童文学　児童文化　韓国　朝鮮　童謡　植民地　方定煥

１．研究開始当初の背景

日本では、近代における韓国児童文学・児童文化の全体像が知られていない。成立期の韓国児童文学は主として雑誌に発表されている。

韓国初の本格的児童文芸誌『オリニ』を創刊した方定煥は、韓国児童文学の開拓者でありながら、日本ではその全貌がまとめられた研究書すらない。

方定煥の研究と評伝が日本語でまとめ公開されることは、この分野の研究を進める上で重要な一里塚となる。

さらに、現代に至るまで韓国児童文学の中で重要な位置を占めてきた＜童謡・童詩文学＞の成立過程とその歴史的背景を考察し代表作家の足跡を明らかにすることは、韓国児童文学への理解を大きく進展させることになる。

２．研究の目的

韓国児童文学の歴史とその特質を理解するために、現代に至るまで韓国児童文学における重要なジャンルとなっている韓国独自の＜童詩文学＞の特質を明らかにする。

具体的には、近代における＜童謡・童詩文学＞成立過程の歴史的背景を理解するために、近代韓国児童文学の開拓者である方定煥(パン・ジョンファン)の研究と評伝の編纂を行い、さらに彼が発刊した韓国初の児童文芸雑誌『オリニ』から登壇した作家である李元寿(イ・ウォンス)、尹石重(ユン・ソクチュン)の足跡をたどり、韓国児童文学を知る上で欠かせない＜童謡・童詩＞の系譜を把握する。

３．研究の方法

韓国児童文学学会会長である金容熙教授（慶熙大大学国語国文学科客員教授）の研究協力を受けながら、主に大韓民国・ソウルにある慶熙大学中央図書館・韓国児童文学研究センターにて、1945 年以前の児童雑誌ならびに方定煥、李元寿、尹石重の関連書籍・資料収集、整理、考察を行う。

その他、資料収集に関連して訪問する機関としては、慶尚南道昌原市にある李元寿文学館、大韓民国国立中央図書館、ソウル大学図書館、延世大学図書館、天道教教会資料室等がある。

特に方定煥研究に関しては、天道教などの関連施設の訪問、遺跡踏査など現地調査の裏付けを行い、韓国語でまとめられている評伝訳出を基礎作業として行い、注解・解説に研究成果を反映させた上で刊行する。

これらの作業を通して、日本における韓国児童文学研究の体系的な基盤を形成する。

４．研究成果

（１）方定煥――1919 年前後

韓国近代児童文学の開拓者で、先駆的人権運動家である小波（ソパ/소파）・方定煥（パン・ジョンファン/방정환、1899 年 11 月 9 日～1931 年 7 月 23 日）は、広く朝鮮社会にカリスマ的影響力を持っていた天道教教祖孫秉熙（ソン・ビョンヒ/손병희、1861～1922 年）の娘婿であり、天道教教団という組織の中でも重要な位置にあった。

方定煥は既存の社会秩序が崩壊する激動の時代に生まれ、生家の没落と貧困を身をもって経験している。また、愛国啓蒙運動あるいは教育救国主義私立学校運動の代表的な私立学校に通いながら、当時の朝鮮の人々の不安な心理を背景に生まれた強力な信仰集団（東学＝天道教）に所属する父親とその人間関係の中で育った。そうした生育環境の中で、当時の朝鮮社会に大きな影響を及ぼした天道教教祖であり、宗教の枠を超えて社会的指導者として名を馳せていた孫秉熙の娘婿として迎えられ、同じ屋根の下で青年期を過ごすことになった。これらの事実から、方定煥を理解する上で天道教とその思想を知ることは最優先課題であり、韓国近代児童文学および児童文化運動を理解するためにはその創始者といわれる方定煥と彼を育てた天道教や孫秉熙の理解が必要となってくる。

（２）ソパ（小波）という号の問題

方定煥が近代韓国初の児童文化運動（オリニ運動）を推進するに当たり、重要な同伴者として金起田（キム・キジョン/김기전、1894～1948？）がいた。号を小春（ソチュン）といい、普成専門学校を卒業した後、1909 年に天道教に入信している。1917 年から約３年間毎日新報社社員として働いたのち、1919 年の３・１独立運動後に天道教の機関紙である『開闢』の主幹として多くの大衆啓蒙的な論説、随筆、詩などを発表している。『開闢』は天道教の枠を超えて 1920 年代の朝鮮社会に最も大きな影響力を持っていた総合雑誌である。そして 1921 年に方定煥などと一緒に「天道教少年会」を組織し、少年運動を展開した。その後 1923 年には「天道教青年団」を組織して青年運動の指導者として民衆を指導した。

このような金起田だが、二人が出会ったのは方定煥が結婚した後で、しばらくの間お互いを「金兄」「方兄」と呼んでいた。しかしそれが不便なことから、号をつけてお互いに呼ぶことになったという。方定煥は号をソパ（小波）とし、金起田は小春（ソチュン）としたという。李相琴は天道教の経典である『東経大全』にその根拠を求めている。李相琴は方定煥の号である＜ソパ/小波＞の由来について金起田の＜小春＞という号と合わせて彼らの信仰から解釈した。現代韓国においても大きな意義を持つ子どもの人権運動という大きなムーブメントの創始者として最初の波を起こそうとしたのだというよりも、そこには二人の深い信仰上の意味があったというのである。

天道教＝東学の発祥の地である龍譚から湧き出た思想の泉は、初めは細い清水であっ

てもいずれ大河をなし、大海の根源となる。そして生命が輝くこの世の春をもたらすという意味で＜小波＞と＜小春＞がつけられたと解釈する。地上天国を建設しよう、新しい世の中を拓こう（開闢）というのが天道教の思想であるから、李相琴の指摘は大変重要で、方定煥理解の核心部分となるに違いない。

さらに李相琴は方定煥の＜小波＞という号の初出を調べている。1918 年の「天道教会月報」98 号に方定煥と金起田が並んで彼らの号（小波・小春）を初めて使ったという。1918 年という年代は、方定煥にとっては『青春』や『唯心』という雑誌で他の筆名で旺盛に文章を書いていた時期であり、金起田は毎日新報記者として活動していた時期である。ここでは、タイトルと名前が漢字になっていて、「牛耳洞晩秋..... 小波生」「心修來而知德..... 小春生」とある。二人がソパ（小波）とソチョン（小春）という名前を使ったのはこれが初めてとのことだった。牛耳洞とは、方定煥の義父であり、天道教教祖の孫秉熙が居住した鳳凰閣があった場所である。天道教のカリスマ、孫秉熙に倣い、天道教人として修業する方定煥の姿がしのばれる美しい文章であると李相琴は評価する。そして、この＜小波＞という号の初出が 1918 年であった

方定煥が児童文学に関心を持ったのは、1919 年の３・１独立運動以降のことであり、1918 年に＜小波＞という号をつけた段階では無関心であった。日本の巌谷小波にも出会っていなかっただろう。方定煥は 1920 年に日本に留学し、そこで当時隆盛していた日本の児童文芸雑誌類に影響を受けたという研究は李相琴をはじめ日韓の研究者によって多数なされているが、日本の児童文学の影響を受けた東京留学以前から＜小波＞という号を使っていたのであるから、日本の巌谷小波との関係を切り離して考える視点は重要である。

（３）３・１独立運動と方定煥

方定煥が、その号＜ソパ・小波＞を名乗り始めるのが、1918 年であった。18 歳のときである。そして、翌年 1919 年は、３・１独立運動が起きた。方定煥の運命も大きく動き出す。17 歳で天道教教祖孫秉熙の娘婿となって同居を始めたのも運命であり、天道教の教理の核心部分を体現し、地上天国を開闢させる最初の小さな波となる＜小波＞を名乗ったのも運命であるならば、義父が３・１独立運動の民族代表となり、その周辺で独立運動を支える役割を担うようになっていくのも方定煥の運命だったのだろうか。

３・１独立運動は、朝鮮の有力な各宗教団体代表が一致団結して独立宣言しているところに特徴がある。すなわち、天道教、キリスト教、仏教である。そこで孫秉熙に従うかたちで方定煥もこの運動の一端を担うことになる。方定煥が直接関わった独立運動は、『独立新聞』の制作と配布である。『独立新聞』といえば、近代朝鮮においては、実は歴史的に三種類の存在が確認されており、方定煥が関わった『独立新聞』は 1919 年 3 月 1 日の天道教の『朝鮮独立新聞』である。

（４）雑誌『開闢』

1920 年代の朝鮮文壇を代表する雑誌に『開闢』がある。当時いくつかあった同人誌の形態ではなく、文壇に広く開かれ、詩や文芸作品も掲載される総合雑誌として朝鮮近代を拓く思想先導の役割を果たした。そして、重要なことは、この近代朝鮮の文芸思潮を形成した『開闢』は、天道教教徒によって刊行された天道教機関紙でもあったことである。朝鮮近代の思想文芸を考えるときに、天道教の考察を欠かすことができない理由がここにもある。

そもそも、＜開闢＞という言葉は、崔済愚が東学を創設した時に言った言葉で、これまでの堕落し、腐敗し、救済不能となった過去の時代は終わり、新しい世の中が拓かれる＜後天開闢＞の時代が来ると予言したことによる。そして、この新しい開闢の世の中を建設するというのが東学布教の目的であり、開闢の世の中というのは、＜侍天主＞信仰を基にする人間中心・人間平等の世の中をいうのである。

崔済愚が言った＜侍天主＞という東学の思想は、天道教に引き継がれ、孫秉熙によって＜人乃天＞と言われたが、いずれにしても、人は天であり、人間の本質である天との一致を待ち望み、回復された人間性でもって地上天国を開闢させるというのが東学＝天道教の思想であった。

（５）三・一運動後の文化政治と新文化運動——天道教青年会と天道教少年会の発足

1919 年 3 月 1 日に起きた三･一運動の結果、朝鮮総督府はこれまでのいわゆる武断政治をやめ、文化政治と呼ばれるソフトな統治へと質的転換を行った。3 月に起きた朝鮮民衆による独立運動に対して軍隊を動員し武力鎮圧を断行した長谷川好道総督は更迭され、同年８月には斎藤実新総督が就任したことに象徴される。

天道教は、三・一運動の中で主導的な役割を担っていたため、孫秉熙をはじめとする教団指導層が拘束される困難に直面したばかりでなく、三・一運動が鎮圧された後も統治者側から要注意団体として監視され続ける宿命にあった。そんな中で、文化政治へと統治の質的転換が行われたことに合わせて、天道教は新しい活路を文化運動の中に模索していくことになる。三・一運動という歴史的な行動とその後の再出発は、天道教活動の核心的活動主体として青年団が組織され、その言論広報活動として総合雑誌が出版されることによって開始された。つまり、「天道教青年教理講演部（後の天道教青年会）」の発足と 1920 年代朝鮮を代表する雑誌で、朝鮮

初の本格的な総合誌とも言える『開闢』がこの時期に誕生するのである。独立運動後の文化政治への転換に合わせ、天道教も巡回講演を通じて青年および農民を対象に＜新文化主義啓蒙運動＞を始めたのである。1920 年 4 月には「天道教青年教理講演部」を「天道教青年会」に改編する。そして、続いて「天道教少年会」というさらに年少の子どもたちを対象とした運動団体の発足につながっていく。

つまり、三・一運動の 1 年後の 1920 年 4 月には、天道教青年会が発足し、6 月には朝鮮初の本格的な総合雑誌『開闢』が創刊され、さらにその 1 年後の 1921 年には対象年齢を広げて 7 歳からの少年少女も対象とした「天道教少年会」が発足され、天道教による新文化運動が力強く動いていったのである。また、さらに 1 年後の 1922 年 5 月 1 日には、天道教少年会創立 1 周年を記念して、方定煥は、「オリニナル（子どもの日）」を宣言した。

「オリニナル（子どもの日）」は、韓国で現在も続く 5 月の国民の祝日で、現在は 5 月 5 日に定められている。そのため、方定煥は現在も毎年 5 月には思い出され、子どもの人権を尊重した文化運動を推進した偉人として敬愛されている。この歴史に記されるオリニナルが創設された 1922 年 5 月 1 日の 2 か月後には、方定煥の唯一の童話集『愛の贈り物（사랑의 성물）』（京城（ソウル）：開闢社、1922 年 7 月 7 日）も刊行されている。『愛の贈り物』は、韓国児童文学史上記念碑的に語られる最初期の童話集であり、この時期、もっとも普及し多くの子どもたちに実際に読まれ影響力があった。全文ハングルで書かれた世界名作童話の翻案集であった。このように、韓国児童文学史の創成期を構成する重要な史実が、この時期方定煥によって一つ一つ実施されていたのである。

ところで、方定煥はすでに 1908 年、満 9 歳の小学生の時に「少年立志会」を組織し、童話の口演、討論会、演説会などを行っていたという実績を有していた。小学生の時から頭角を現していたのであるからこうした弁論活動は生れついた才能なのだろう。また、三・一運動直前の 1919 年 1 月には、方定煥が設立のキーパーソンである京城青年倶楽部の同人誌『新青年』が創刊されている。方定煥は、のちに少年会運動で歴史に名を残すが、それは、天道教の一連の新文化運動の中で生まれたものであったのである。

（6）開闢社と方定煥

方定煥は、三・一運動以降、天道教内で重要な役割を果たしていくことになる。朝鮮初の本格的な総合雑誌である『開闢』が創刊されたのもこの頃だった。方定煥が 1920 年 9 月に東京に留学したのも、この『開闢』の東京特派員として天道教から派遣されたものである。

『開闢』は、ハングルと漢文混用で 160 面内外の総合雑誌として創刊された。天道教の教理と合わせて、当時の朝鮮が置かれた状況を打破し新しい時代を開かなければならないという民族的な自覚が現れた雑誌名と言える。雑誌『開闢』および、天道教青年会に集う方定煥を始めとする若者たちの活動は、朝鮮の新時代を開こうとする新文化運動であり、啓蒙活動であり、民族的自立と社会変革、自己改革を目指した真の意味での独立運動であった。

社会変革を目指すのであるから、体制側からの特別な注意が向けられないはずがない。言論出版活動と集会を認めた文化政治といえども、朝鮮総督府による厳格な管理下にあったわけで、『開闢』出版許可と検閲体制には大変厳しいものがあった。1920 年 6 月 25 日に創刊された『開闢』は、1926 年 8 月 1 日に強制廃刊されるまで、通巻 72 号を出したが、そのうち半数近くが押収の憂き目に遭っているのだから状況は大変厳しかったと言わざるを得ない。

このようにして方定煥は、三一運動後の天道教内で重要な役割を果たしながら『開闢』の創刊と執筆に関わり、まもなくその東京特派員として渡日し、新たな転機を迎えることになるのである。

（7）方定煥の東京留学

方定煥は、1919 年 3 月 1 日の独立運動に関わった後、しばらくして東京に留学している。方定煥の東京留学は、方定煥の個人史としての意味だけでなく、韓国児童文学の創生期を考える場合にも非常に重要な意味を持っている。

方定煥が書いた最初の童話集であり、韓国児童文学史の出発点に数えられる『愛の贈り物（사랑의 성물）』京城：開闢社、1922 年 7 月 7 日）は、1921 年末に留学先の東洋大学近くで書かれたものである。また、韓国初の本格的児童文芸誌であり、その後の韓国児童文学史を築く作家たちを輩出し、韓国の童話童謡の出発点となった作品が発表された『オリニ』誌も方定煥が 1923 年 3 月に創刊したもので、ここには当時東京で流行していた『赤い鳥』や『金の船』『金の星』などの児童文芸誌の影響が見られる。

1919 年に３・１独立運動が起きた後、朝鮮総督府はこれまでの武断統治から文化統治に切り替え、言論や集会が容認されるようになった。1920 年には、3 月に『朝鮮日報』、4 月に『東亜日報』、そして 6 月には『開闢』が創刊されており、韓国近代の代表的言論媒体が相次いで誕生した。新時代の始まりである。

（8）「オリニ（こども）」という用語の初出

方定煥も、1920 年 8 月に刊行された『開闢』第 3 号に、「灯りをつける人（불켜는 이）」という翻訳詩を発表し、そこではじめて「オリニ（こども）」という新しい用語を用いて

いる。これまでの朝鮮で使われたことのない、新しい感覚を表す「オリニ（어린이）」という造語である。従来から朝鮮では、子どものことを「児孩（アヘ）」「童蒙（ドンモン）」と表現していたが、方定煥は、ここではじめてハングル表記の純粋朝鮮語で「幼い人」の意味を持つ「オリニ」を名詞として使用したのである。

「灯りをつける人」は、童心主義児童文学の古典といえるロバート・ルイス・スティーブンソン（Robert Louis Balfour Stevenson、1850～1894年）の『子どもの詩の園』(A Child's Garden of Verses, 1885)に収録されているThe Lamplighterの翻訳である。この詩は多分に方定煥の創作が付与された詩であること間違いないが、方定煥自身「訳」と記していることと、詩の内容はまさにスティーブンソンのThe Lamplighterでることが明白であることから、方定煥はスティーブンソン『子どもの詩の園』のような童心主義的な世界観に憧れ、そうした童心の主体を表す新しい表現として「オリニ」を使ったものと思われる。

ところで、この「オリニ」の新用語が初めて発表された舞台である『開闢』は、天道教を背景とする雑誌である。朝鮮文壇に開かれた代表的総合雑誌として文学史を飾るが、発行元は天道教であり、天道教の機関誌でもあった。そして、方定煥は、この新しい「オリニ」の詩を『開闢』に発表した後、同じく天道教特派員の資格で東京に行った。方定煥の東京行は、まずは天道教幹部としての事業の為であった。

方定煥の留学は、韓国児童文学史から見ると、その留学があってこそ、韓国初の世界名作童話集が生まれ、子どものための本格的な文芸誌が生まれ、その文芸誌を舞台に創作童話や後に国民愛唱歌となるような童謡が生まれ、後続の作家たちが誕生し、これまでの朝鮮になかった新しい文化としての「児童文化運動」が始まったものと認識されている。近代韓国児童文学は、方定煥の東京留学を契機に本格的に始まったといえる。だが、確かにそれが事実で、そのような成果があったとしても、だからといって方定煥の東京留学の目的が最初から児童文学にあったと安易に判断してはならない。

方定煥の渡日は植民地統治体制の制約の中で実行されたことで、当時はまだ難しかった留学生としての身分ではなく、雑誌の特派員という身分で渡航していた。朝鮮総督府は、武力で抑圧するのではなく文化統治に切り替えたことから、1920 年春、『朝鮮日報』や『東亜日報』などの現在に続く大手新聞が刊行され、それに続くかたちで近代朝鮮を代表する総合雑誌『開闢』も生まれた。方定煥はこの『開闢』の特派員として渡日できたのだった。渡日後は、特派員記者としての活動だけでなく、天道教青年会東京支会を発足させたり、初代会長としての重責を果たしたりした。

『開闢』は近代朝鮮の文壇を代表する総合雑誌であるが、発行元は天道教で、天道教の機関誌でもあった。そして、渡日後すぐにとりかかった大きな仕事は、やはり天道教青年会東京支会を発足させたことと初代会長に就任したことであっただろう。方定煥の渡日には、天道教人としての渡日という側面があったことは決して見過ごしてはならない。

天道教は民族宗教であり、抑圧されてきた農民たちが旧来の朝鮮社会に異を唱え人間性解放を訴えた東学を基にする団体である。そしてその後の植民地支配に抵抗したのも当然のことで、独立運動の主体となった。方定煥は、この天道教の第三代教主孫秉熙の娘婿である。韓国児童文学の出発点とされる方定煥の東京留学も、この天道教の後ろ盾があってこそのものであったことは深く認識しなければならないだろう。

【参考文献】

＜韓国語文献＞

・『開闢』開闢社（1920 年 6 月～1926 年 8 月、通巻 72 号）

・『어린이』開闢社（1923 年 3 月～1934 年 7 月、通巻 122 号）

・李在徹『韓国現代児童文学史』seoul：一志社、1978 年

・―――『韓国児童文学作家論』seoul：一志社、1983 年

・―――『世界児童文学大事典』啓蒙社、1989 年

・―――「児童雑誌『어린이』研究」、『韓国児童文学研究』seoul：啓蒙社、1983 年

・이상금『소파 방정환의 생애-사랑의 선물』한림출판사、2005 年

・조성운『소년운동을 민족운동으로 승화시킨 방정환』역사공간、2012 年

・염희경『소파 방정환과 근대 아동문학』경진、2014 年

・민윤식『방정환 평전』스타북스소파、2014 年

＜日本語文献＞

・李在徹「韓国児童文学の歴史と現状」、児童文学者協会『日本児童文学』1990 年 6 月号

・―――「1920 年代の韓半島の児童書――児童雑誌を中心にして」、『子どもの本・1920 年代展図録』1991 年

・―――「韓日児童文学の比較研究（１）」、大阪国際児童文学『外国人客員研究員 研究報告集 1989～1990』1993 年

・李相琴「方定煥と「オリニ」誌―「オリニ」誌刊行の背景―」、大阪国際児童文学『外国人客員研究員 研究報告集 1995～1996』1997 年

・―――「日本と韓国にかける児童文化の橋～韓国オリニ文化をとおして考える～」、大

阪国際児童文学『外国人客員研究員 研究報告集 1995～1996』1997 年
・仲村修「方定煥研究序論―東京時代を中心に」、『青丘學術論集 14』1999 年
・李姃炫『方定煥の児童文学における翻訳童話をめぐって―「オリニ」誌と「サランエソンムル（愛の贈り物）」を中心に』大阪大学大学院言語文化研究科修士論文、2004 年
・金永順『植民地時代の日韓児童文学交流史研究―朝鮮総督府機関紙「毎日申報」子ども欄を中心に―』梅花女子大学大学院博士学位請求論文、2006 年
・黄善英『「童心」の思想と詩法――日韓近代の童謡運動』東京大学大学院博士学位請求論文、2007 年
・金成妍『越境する文学―朝鮮児童文学の生成と日本児童文学者による口演童話活動―』九州大学大学院比較社会文化学府・日本社会文化専攻博士学位請求論文、2008 年
・大竹聖美『植民地朝鮮と児童文化』社会評論社、2008 年

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　５　件）
①大竹聖美「方定煥の東京留学――李相琴『小波・方定煥の生涯――愛の贈り物』を読む」東京純心大学『現代文化学部　紀要』第 21 号、2018 年 3 月、pp.1～20、査読有

②大竹聖美「東アジアにおける「生態環境文学」の視点から振り返る日本の平和絵本――災害・公害・戦争・核に取材した作品から」東京純心大学キリスト教文化研究センター論文集『カトリコス』第 11 号、2018 年 3 月、pp. １～25、査読有

③大竹聖美「新文化運動と方定煥――李相琴『小波・方定煥の生涯――愛の贈り物』に見る天道教青年会発足と『開闢』創刊」、東京純心大学『現代文化学部　紀要』第 21 号、2017 年 3 月、pp.1～12、査読有

④大竹聖美「韓国近代児童文学創成期における愛――方定煥の児童文学における愛」東京純心大学キリスト教文化研究センター論文集『カトリコス』第 10 号、2017 年 1 月、pp. １～43、査読有

⑤大竹聖美「1919 年前後の方定煥――＜小波（ソパ）＞の由来と３・１独立運動～評伝『小波・方定煥の生涯――愛の贈り物』を読む～」、東京純心大学『現代文化学部　紀要』第 20 号、2016 年 3 月、pp.9～27、査読有

〔学会発表〕（計　５　件）
①大竹聖美「日本の生態児童文学（自然、環境、平和）――生態系破壊（災害、公害、戦争）に取材した作品から」、主催：大韓民国昌原市「昌原世界児童文学祝典」、シンポジウム：「東アジア児童文学の生態・環境・自然・平和そして交流の方向性」、場所：昌原コンベンションセンター　　平成２９年 5 月 19 日

②大竹聖美「日本の絵本の現況」、主催：大韓民国昌原市市民読書の集い、場所：李元寿文学館、 平成２９年 5 月 20 日

③大竹聖美「日本における朝鮮・韓国の詩（子守歌・童謡・童詩）の受容」、「第 13 回アジア児童文学大会」、主催：国立台東大学児童文学研究所、会場：国立台湾史前文化博物館、平成 28 年 8 月 11 日～15 日

④大竹聖美「日韓のキリスト教児童文学を考える」東京純心大学、こども文化研究センター主催、 平成 28 年 3 月 12 日

⑤大竹聖美「東アジアの絵本から保育の未来をひらく～韓国・台湾・中国の絵本の今と、保育のこれから～」奈良教育大学、次世代教員養成センター、平成 28 年 3 月 29 日

〔図書〕（計　１　件）
①大竹聖美責任編集『日韓キリスト教児童文学研究』東京純心大学こども文化研究センター、2016 年、全 123 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）
○取得状況（計　　件）

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

大竹　聖美（OTAKE　KIYOMI）
東京純心大学・現代文化学部・こども文化学科・教授
研究者番号：60386795

(2)研究分担者（　　）研究者番号：
(3)連携研究者（　　）　研究者番号：
(4)研究協力者（　　）